

2017年度 自己点検・評価【国際学部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

責任者	国際学部長	作成部局	国際学部
-----	-------	------	------

【A票：教育研究目標1】

(タイトル)

「問題発見解決能力」の養成

(狙い内容)

学生自らが主体的に問題を発見し、適切な方法に基づいて問題を解決できる能力を養成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

スーパー・グローバル・ユニバーシティ実施計画に基づき、より多くの学生が、学部の設定した「問題解決能力を備えた学生」としての基準を満たすことを目指す。

2. 達成度評価

評価指標	「実践型“世界市民”育成プログラム」における3つのコースのうち、問題解決能力という観点から、「グローバル・リーダー・コース」修了の必修となっている「リーダー養成科目」群及び「国連ユースボランティア実習」「国際学生セミナー」の履修者数合計を指標とする。	評価尺度	A：120名以上 B：110～119名 C：95～109名 D：94名以下
	<変更時記入欄> 「ダブルチャレンジプログラム」における3つのプログラムのうち、問題解決能力という観点から、「ハンズオン・ラーニング・プログラム」の「全学科目」および「国際学部開講科目」を履修した国際学部生の人数を指標とする。		<変更時記入欄> A：50名以上 B：35～49名 C：20～34名 D：19名以下

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 94名	C 105名					
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	D	C	実績	C	B	B	A
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	94名	105名		25名	30名	35名	45名

【2017年度の進捗状況について】

評価指標・評価尺度・目標値を変更した。2021年度に向けて取り組みを進めていく。

<変更理由記入欄：評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

「実践型“世界市民”育成プログラム」の新規登録は2016年度入学生をもって終了するため、2017年度以降は登録者の卒業に伴い数値が減少するのみである。よって、新たな評価指標・評価尺度・目標値を設定した。

2017年度 of 取組み状況の確認

2017年度 of 取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・新たな目標と行動計画が着実に進捗することが期待されます。
- ・行動計画の主体が「学部」となっていますが、これは適切でしょうか。(A)
- ・行動計画①の「年度毎の目標値及び進捗評価」の2015年度の評価はB(611名)が、「D」になっています。それ以外には特にありません。(B)
- ・概ね順調に進展しています。
- ・教育研究目標1の評価指標等の変更及びそれに伴う行動計画の変更は、妥当だと思われます。(C)
- ・順調です。(D)
- ・新たな行動計画での進展が期待されます。(E)
- ・指標の見直しが適切にされており、評価できます。(F)
- ・国際学部の学生が積極的にハンズオン・ラーニングプログラムを活用して、広範な学びを経験していくことを期待しています。(G)
- ・「問題発見解決能力」は国際学部の学生すべてが身につけるべき能力ではないでしょうか？指標に設定したハンズオンラーニング科目の履修者数の評価尺度Aの目標値が50名ということで問題ないのでしょうか。(I)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)
「多文化共生能力」の養成

(狙い内容)
異文化に対する理解力や感受性を養成し、異文化・多文化的環境の中で能動的に行動できる能力を養成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

スーパー・グローバル・ユニバーシティ実施計画に基づき、より多くの学生が「多文化共生能力を備えた学生」としての基準を満たすことを目指す。

2. 達成度評価

評価指標	関西学院大学及び国際学部の開設する留学科目(海外インターンシップを含む)のうち、多文化共生能力の育成と深くかかわる中期以上の留学プログラムに参加する学生の延べ人数を指標とする。	評価尺度	A : 260名以上 B : 240~259名 C : 220~239名 D : 219名以下
-------------	--	-------------	--

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		B 258名	B 255名	C 231名	C 238名	B 245名	B 252名	A 260名
	評価 尺度: A~D	B	B	実績	B	C	B	B
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	258名	255名		248名	C	B	B

【2017年度の進捗状況について】

設定した目標値に対して十分な結果である。

なお、「異文化に対する理解力や感受性を養成し、異文化・多文化的環境の中で能動的に行動できる能力を養成する。」という狙いに対して、「中長期の留学」への参加が効果的であることは論を俟たず、また、尺度についても、中長期の留学に参加するのは主に2年生であり、1学年の定員300名に対して、設定されている評価尺度は十分にチャレンジングである。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 問題なく進捗しているものと認められます。
- ・ 行動計画の主体が「学部」となっていますが、これは適切でしょうか。(A)
- ・ 中期以上の留学・研修プログラムの参加者数は、景気や学生の求人率に大きく影響されると考えられます。この問題は、本学や貴学部独自の問題ではなく、日本の大学全体の問題でもあります。こうした事情に鑑みることなく目標値を大きく設定されているところに、多少無理があるような気がします。(B)
- ・ 概ね順調に進展しています。ただし、学部独自の参加者数の少なさが気になるようです。(C)
- ・ 順調です。(D)
- ・ 中期以上の留学プログラムの参加者数は順調に推移しています。(E)
- ・ 学生が自分で留学先を見つけるという状況に変化する中、進捗は良いと思われれます。(F)
- ・ 引き続き中長期の留学に参加する学生が増えるように積極的な取組みを期待します。(G)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)
「倫理的価値観」の養成

(狙い内容)
キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を養成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

本学部卒業生がグローバル時代の世界において問題解決能力、多文化共生能力、コミュニケーション能力を発揮して活躍していく、前提として、建学の精神やキリスト教の考え方に接する機会を増やし、関西学院発のグローバル人材としての素地を備えた人間をより多く育成していくことを目指す。

2. 達成度評価

評価指標	学部実施のチャペルアワー(日本語・英語)の延べ参加人数を指標とする。	評価尺度	A : 4000名以上 B : 3600~3999名 C : 3200~3599名 D : 3199名以下
-------------	------------------------------------	-------------	--

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		C 3458名	C 3487名	C 3500名	B 3600名	B 3700名	B 3850名	A 4000名
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	C	C	実績	C			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	3458名	3487名		3400名			

【2017年度の進捗状況について】

秋学期に昨年度並みの参加者が得られれば、目標を上回りB評価となる見込みであり、順調に進捗している。
→秋学期の数字が伸びず、見込みより参加者数は少なくなったものの、評価尺度で見れば設定した目標のとおりに移しているが、実数で見れば減少していることに留意する必要がある。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 目標の達成度評価の指標として、「チャペルへの出席」だけで十分でしょうか。
- ・ チャペルへの出席を促す方法は、「学生への周知」だけで十分でしょうか。
- ・ 行動計画の主体が「学部」となっていますが、これは適切でしょうか。(A)
- ・ 順調に進捗している様子が伺え、評価に値すると思います。(B)
- ・ 順調に進展しています。(C)
- ・ 順調です。(D)
- ・ 目標は順調に進展しています。(E)
- ・ 順調に進捗しており、評価できます。(F)
- ・ 春学期実数で既に参加学生数が多く、通年で目標を大きく上回ることが期待されます。(G)
- ・ 順調に進んでいます。(I)
- ・ 目標に向けて今後の発展が期待されます。(J)

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)
「言語コミュニケーション能力」の養成

(狙い内容)
多様な言語文化の所有者に向けて、言語による受発信を行うことができる外国語運用能力を養成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

スーパー・グローバル・ユニバーシティ実施計画を指針としつつ、より多くの学生が学部の設定した外国語力基準を満たすことを目指す。

2. 達成度評価

評価指標	学院総合企画会議の基本方針を踏まえ、学部の設定する英語力基準をTOEIC740点(英検準1級相当)に設定し、3年次に実施するTOEICにおいてこの目標英語力基準に到達する学生の比率を指標とする。	評価尺度	A : 50%以上 B : 47%以上50%未満 C : 44%以上47%未満 D : 44%未満
-------------	---	-------------	--

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 43.78%	D 41.20%	C 46.00%	B 47.00%	B 48.00%	B 49.00%	A 50.00%
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	D	実績	A			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	43.78%	41.20%		58.04%			

【2017年度の進捗状況について】

昨年度課題として残った「高得点層の学生の受験」について、広報等の取り組みにより受験させることに一定の成功を収め、結果として大幅な達成となった。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 着実な進捗が認められます。
- ・ 行動計画の主体が「学部」となっていますが、これは適切でしょうか。(A)
- ・ 行動計画①の行動計画内容で、「どのようにして」のところでは、「授業評価アンケートの結果を参考にして改善に取り組む」というような内容も必要であるように思います。(B)
- ・ 概ね順調に進展していますが、その他の行動計画も検討されることが期待されます。(C)
- ・ 学部の特性上、語学試験の数値についてはより高い目標設定も考えられます。昨年度も指摘があったようですが、現今の高等教育政策の流れから、TOEFLを始めとする語学試験の導入についても一考の余地があります。(D)
- ・ 英語力基準に到達する学生は順調に進展しています。(E)
- ・ 目標を大幅に上回る取組みが進められており、今後も高い水準を維持・向上させる取組みを期待します。(G)
- ・ 目標に向けて今後の発展が期待されます。(J)